

監査の質が利益マネジメントに与える影響 —総合的な監査の質の指標を用いた分析—

海老原ゼミ

渡辺颯太 金融学科 4 年
笹川勇志 経営学科 4 年
蜂須風人 金融学科 4 年
森谷瑞穂 金融学科 4 年
清本麻緒 金融学科 4 年

本研究では、監査の総合的な質と経営者の利益マネジメントとの関係を検証した。近年、不適切会計の事例が増加しているが、外部監査人の能力上の問題に加え、内部監査および監査役におけるガバナンス上の問題により、質の高い監査が困難になっていることがその原因として指摘されている。これまで、外部監査の質と企業内部の監査の質については個別に研究がなされてきたが、両者を総合した監査全体の質を対象とした研究は非常に少ない。本研究では、主成分分析を用いて外部監査および企業内部の監査の総合的な質を捉える指標を作成し、修正 Jones モデルおよびキャッシュフロー修正 Jones モデルから求めた裁量的アクルールズを利益マネジメントの代理変数として、両者の関係を検証した。検証の結果、本研究の仮説「総合的な監査の質が高いほど、利益マネジメントは抑制される」は支持された。外部監査のみならず、企業内部の監査も含めた総合的な監査の質の向上は、利益マネジメントの抑制を通じて利害関係者間の情報の非対称性とコンフリクトを緩和し、資本コストの低下および企業価値の増加に資すると考えられる。